

シリーズ8

「流れ」でおさえよう！

江戸時代は約260年続きますが、大きく分ければ4つの時期に区分できます。

1つめは、徳川家康から3代家光までの「武断政治」の時代。

2つめが、4代家綱から7代家継までの「文治政治」の時代。

3つめが、「幕政改革の時代」で将軍でいえば、8代吉宗から12代家慶までの時代です。

そして最後が、「開国から江戸幕府の滅亡までの時代」です。将軍では13代家定から15代慶喜の時代になります。

この4つの時期を、将軍を目印（ポイント）にしながら、法令や制度、政策、事件、外交上の問題などを整理していきましょう。

今回は、江戸時代の「流れ」を主に文化的側面から見ていきます。

第8回 江戸時代

<幕府の教育機関の流れ>

林家の私塾 → 湯島聖堂学問所 → 昌平坂学問所
1630年 1690年 1797年

家康・秀忠・家光・家綱4人の侍講となったのが**林羅山**でした。彼は林家の私塾弘文館を上野忍ヶ丘に開きました。綱吉期の1690年、弘文館を湯島昌平坂に移し、大成殿を設けて孔子を祀ります（孔子廟）。湯島聖堂大成殿完成の時に、羅山の孫である**林信篤**が髪を伸ばして**大学頭**となります。そして、聖堂学問所として整備されていくこととなります。

寛政の改革の後に施設・制度が整備され、1797年に林家の私塾を切り離し、幕府直轄の学問所として**林述斎**が創設しました。

ちなみに、林羅山を徳川家康に推薦した人物は誰でしょうか？

そう、藤原惺窩でしたね。

<琳派の流れ>

俵屋宗達 → 尾形光琳 → 酒井抱一
江戸初期 中期 後期

俵屋宗達は京都の町衆出身で、華麗な色彩で引き締まった構図、豊かな量感に特色があります。代表作はユーモラスな『風神雷神図屏風』でしたね。

元禄の頃に活躍したのが尾形光琳で、江戸初期の本阿弥光悦・俵屋宗達に傾倒し、茶道や蒔絵にも通じた文化人でした。彼が「琳派」の大成者ですね。代表作は『紅白梅図屏風』『燕子花図屏風』『八橋時絵硯箱』です。

酒井抱一は琳派の画風を江戸で再興させました。姫路藩主の次男で、代表作に『夏秋草図屏風』がありますよ。

この3人は「琳派」なんですが、直接の師弟関係はありません。それぞれの活躍した時代には100年ほどの開きがあります。

<浮世絵の流れ>

菱川師宣 → 鈴木春信 → 喜多川歌麿・東洲斎写楽など
17C末 18C半 18C後半
創始者 錦絵創始者 美人画・役者絵など

菱川師宣は墨一色ですが安価な挿絵本で人気を博しました。浮世絵版画の本の挿絵から独立した芸術作品に高めました。代表作は晩年に描いた肉筆画の『見返り美人図』ですね。

鈴木春信は一枚刷りの多色刷り版画の浮世絵である錦絵を完成させました。情緒に富む美人画が好評で、代表作には『弾琴美人』がありますね。

喜多川歌麿は美人大首絵の新様式を開拓しました。代表作は『婦女人相十品』です。東洲斎写楽は生没年不詳で、わずか1年ほどの間に140点ものの個性的役者絵と相撲絵を残した。代表作は『市川蝦蔵』などがあります。

さて、質問です。喜多川歌麿や東洲斎写楽の作品だけでなく、恋川春町の黄表紙や山東京伝の洒落本を刊行した人物は誰でしたか？ この人物は、山東京伝の洒落本出版で財産の半分を没収されてしまう処分を受けました。また、この人物が経営した本屋の名前はわかりますか？

答えは、**薦屋重三郎**でした。そして本屋は「**耕書堂**」です。山川出版社の教科書には耕書堂の絵や注がありますから、確認しておいてください。

<暦の変遷>

宣明暦 → **貞享暦** → **(宝暦暦)** → **寛政暦** → **(天保暦)**
861年 1685年から実施 1797年から実施

朝廷で採用された唐の宣明暦は、江戸時代に入ると実際の天体の動きと誤差が大きくなり改暦が必要になりました。**安井算哲**は**元の授時暦**をもとに、彼自身の観測による修正を加えて新暦をつくりました。それが貞享暦ですね。安井算哲は**初代天文方**になった人物です。

貞享暦は宝暦年間に改定されましたが、高橋至時・間重富らによって西洋の暦法を採り入れ改定されたものが寛政暦です。その後、天保暦に修正されました。()は覚えなくてよいですよ。

<アイヌの反乱>

コシャマインの乱 → **シャクシャインの戦い** → **クナシリ・メナシの戦い**
1457年 1669年 1789年

コシャマインの乱は和人の館を攻め落としますが、武田信広に鎮圧されます。

シャクシャインの戦いは松前藩の**商場知行制**により、今まで自由な交易ができなくなったため、不満を持ったシャクシャインたちが蜂起しました。

クナシリ（国後）・メナシ（目梨）の戦いは、**場所請負制**により交易を請け負った商人たちがアイヌを強制的に働かせたので反乱が起きました。

<江戸時代の3大飢饉>

享保の飢饉 → **天明の飢饉** → **天保の飢饉**
1732年 1782年 1833～39年

享保の飢饉は西日本における天候不順とイナゴ・ウンカの異常発生が原因で発生しました。

天明の飢饉は気候不順と浅間山噴火による東北地方の冷害により大きな飢饉となり、東北関東を中心に92万人もの死者を出しました。

天保の飢饉は長年に及ぶ冷害型の飢饉でした。